

別寒辺牛湿原の環境とヨコエビ

広島大学大学院教育学研究科

富川 光

【はじめに】

北海道は酪農や農業が盛んですが、牛や豚の尿や糞、農作物を育てるために使われる肥料などが川や池に流れ込むことによって環境が悪くなってしまうことが心配されています。別寒辺牛湿原はタンチョウやイトウをはじめとして、貴重な野生生物がたくさん生息しています。別寒辺牛湿原の環境を守るためには、まず、湿原の環境がどうなっているかを知る必要があります。私が研究しているヨコエビはエビやカニ、ダンゴムシと同じ甲殻類というグループに含まれる体長1センチメートル程度の小型の動物です。ヨコエビは環境が悪くなると生きていけない動物です。そこで、別寒辺牛湿原の環境を知るために、ヨコエビの調査をおこないました。

【方法】

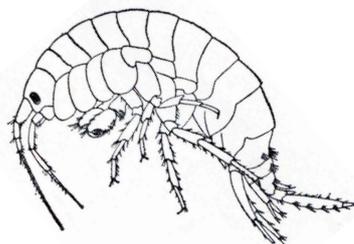
ヨコエビは湿原を流れる川からタモ網を使って採集しました。魚をとるための網でも採集できますが、ヨコエビは1センチメートル（数ミリメートルの小型のものもいます）と小さいため、網の目が細かいものを使いました（金魚や熱帯魚をすくう網でも採集できます）。ヨコエビの採集と同時に、水の温度や水に溶けている酸素の量などの水質についても調べました。

【分かったこと】

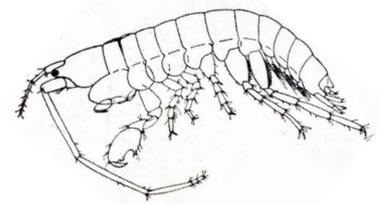
今回の研究により、別寒辺牛湿原には2種類のヨコエビ（トゲオヨコエビ、カマカヨコエビ）がいることが分かりました。トゲオヨコエビは別寒辺牛湿原の多くの場所で見つかりました。一方、カマカヨコエビは非常に限られた場所からしか採集することができませんでした。トゲオヨコエビは体長が1～2センチメートルくらいありますので、採集・観察は難しくないと思います。カマカヨコエビは体長が3～5ミリメートルと非常に小さいため、見つけるのは簡単ではないでしょう。

トゲオヨコエビが別寒辺牛湿原の多くの場所に生息していることから、別寒辺牛湿原の環境は今のところ良い状態に保たれていると考えられます。ただ、気になるのは、川下りのカヌーのために川岸に作られた施設（カヌーの発着場）など、人の手が加わった場所では、

ヨコエビがほとんど見られないということです。川岸の開発によりヨコエビにとって良い生息環境が壊されてしまったのか、まだはっきりとしたことは分かっていません。これから、ヨコエビが水質以外にどのような環境を好むのか、また嫌うのかを明らかにしていく必要があると考えています。カヌーによる川下りは自然環境を学ぶためにも有用なものですし、観光資源としても大切です。別寒辺牛湿原の環境を守りながら、私たちが豊かな生活を送ることができるようにみんなで考えていくことが大切だと思います。



トゲオヨコエビ
(新日本動物図鑑より)



カマカヨコエビ
(新日本動物図鑑より)